

ページ	個 所	誤	正
目次	第 I 編第 4 章 2	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状 <u>等</u> の分類
目次	第 II 編第 D 章 4.2	塗装仕様(全工場塗装)	塗装仕様(全工場塗装 <u>系</u>)
目次	第 II 編第 D 章 4.3	塗装仕様(添接部表面の塗装)	塗装仕様(添接部表面の塗装 <u>系</u>)
目次	第 III 編第 C 章 1	塗膜劣化状態 <u>およびケレン程度見本</u>	塗膜劣化状態
目次	第 III 編第 C 章 2 (ページ数)	III-44	III- <u>52</u>
目次	第 III 編第 C 章 3 (ページ数)	III-48	III- <u>56</u>
p I -13	第 I 編第 4 章 2 標題	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状 <u>等</u> の分類
p I 解-13	第 D 章 4 関連する項目	鉄桁等鋼構造物の形状などの分類	鉄桁等鋼構造物の形状 <u>等</u> の分類
p II -24	表 2.3.1 亜鉛めっき面用変性エポキシ樹脂系塗料下塗の気温	5 以下	<u>10</u> 以下
p II -24	表 2.3.1 亜鉛めっき面用変性エポキシ樹脂系塗料下塗・低温用の気温	5 以下	<u>2</u> 以下, <u>20</u> 以上
p II -25	解表 2.3.1 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の 5℃における塗装間隔(下限値)	-(ハイフン)	3D~
p II -31	表 2.3.6 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の塗装間隔	24H~15D	24H~ <u>7D</u>
p II -31	表 2.3.6 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の塗装間隔	24H~15D	— (ハイフン)
p II -41	[解説]*設計上の留意事項(1)	上り線右側主桁に~	上り線 <u>は</u> 右側主桁に~
p II -42	表 2.5.1 厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗の適合する JIS 規格	-(ハイフン)	<u>JIS K 5659 上塗り</u>
p II -42	表 2.5.1 水系ポリウレタン樹脂塗料用中塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-31	SPS66099- <u>32</u>
p II -42	表 2.5.1 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-32	SPS66099- <u>31</u>
p II 解-6	第 D 章 4.2 標題	塗装仕様(全工場塗装)	塗装仕様(全工場塗装 <u>系</u>)
p II 解-8	第 D 章 4.3 標題	塗装仕様(添接部表面の塗装)	塗装仕様(添接部表面の塗装 <u>系</u>)
p III -17	表 3.3.1 塗装系 G-7(替ケレン-4 以外)・第 4 層目の区分	(空欄)	<u>全面</u>
p III -20	【塗装系 J】*設計上の留意事項(2)	また、次層(厚膜型エポキシ樹脂系塗料下塗)との~	また、次層(厚膜型 <u>変性</u> エポキシ樹脂系塗料)との~
p III -30	表 3.4.6	追加	<u>塗料名:厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料上塗, 同低温用</u> <u>希釈剤:専用シンナー</u> <u>希釈率:スプレー…20 以下 はけ・ローラ…10 以下</u>
p III -30	表 3.4.6 塗料名	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料 <u>下塗</u>	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料

ページ	個 所	誤	正
pIII-37	表 3.6.1 厚膜型ポリウレタン樹脂塗料上塗の適合する JIS 規格	-(ハイフン)	JIS K 5659 上塗り
pIII-37	表 3.6.1 の塗料名	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料 および同・低温用	厚膜型変性エポキシ樹脂系塗料
pIII-37	表 3.6.1 の塗料名	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料 上塗
pIII-37	表 3.6.1 水系ポリウレタン樹脂塗料上塗の鉄道総研規格番号	SPS66099-32	SPS66099- 31
pIII-41	第Ⅲ編第 C 章 1 標題	塗膜劣化状態 およびケレン程度見本	塗膜劣化状態
pIII解-5	2.2 [解説]*設計上の留意事項(2)	第Ⅲ編第 C 章 2“ケレン程度見本”(pIII-44)を参考とすること。	第Ⅲ編第 C 章 2“ケレン程度見本”(pIII- 52)を参考とすること。
附属-1	塗料名		
附属-11	塗料名	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料	劣化亜鉛面用厚膜型ポリウレタン樹脂塗料 上塗
附属-26	塗料名称および附表 A3.29 の題名		
付属-60	1. 評価の考え方 の上から 9 行目	Updated MIR Scale for Regulatory Applications, Preliminary Report to California Air Resources Board Contract No.95-308, 1998	Reactivity Estimates for Selected Consumer Product Compounds, Final Report to California Air Resources Board Contract No.06-408, 2007
参考-50	4.1.3 (1)防せい顔料 の 2~7 行目	過去には、鉛 (Pb) やクロム (Cr) の化合物である鉛丹 (Pb ₃ O ₄)、亜酸化鉛 (Pb ₂ O)、ジニクロメート (ZnXpO ₄ ・4Zv(OH) ₂)、シアナミド鉛 (XN ₂ Pb)、塩基性クロム酸鉛 (PbXpO ₄ ・PbO)、鉛酸カルシウム (2XαO・PbO ₂ (Xα ₂ PbO ₄)) などが安価で性能が高いため多用されていた。しかし、近年に鉛化合物やクロム化合物の健康被害に対する関心が高まり、鉛、クロムを含まない亜鉛末 (Zv)、りん酸亜鉛系 (例えば Zv ₃ (PO ₄) ₂)、りん酸アルミニウム系 (例えば λH ₂ P ₃ O ₁₀ ・2H ₂ O)、モリブデン酸塩系 (例えば ZvMoO ₄ /ZvO)、亜リン酸亜鉛系 (例えば ZvPHO ₃ /ZvO) の顔料が用いられるようになっている。	過去には、鉛 (Pb) やクロム (Cr) の化合物である鉛丹 (Pb ₃ O ₄)、亜酸化鉛 (Pb ₂ O)、ジニクロメート (ZnCrO ₄ ・4Zn(OH) ₂)、シアナミド鉛 (CN ₂ Pb)、塩基性クロム酸鉛 (PbCrO ₄ ・PbO)、鉛酸カルシウム (2CaO・PbO ₂ (Ca ₂ PbO ₄)) などが安価で性能が高いため多用されていた。しかし、近年に鉛化合物やクロム化合物の健康被害に対する関心が高まり、鉛、クロムを含まない亜鉛末 (Zn)、りん酸亜鉛系 (例えば Zn ₃ (PO ₄) ₂)、りん酸アルミニウム系 (例えば λH ₂ P ₃ O ₁₀ ・2H ₂ O)、モリブデン酸塩系 (例えば ZnMoO ₄ /ZnO)、亜リン酸亜鉛系 (例えば ZnPHO ₃ /ZnO) の顔料が用いられるようになっている。
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 3, 5, 7, 9, 10 行目	μ	μm
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 3, 6 行目	BαΣO ₄	BaSO₄
参考-50	4.1.3 (2)体質顔料 の 9 行目	XαXO ₃	CaCO₃
参考-104	3. 標題	3. 設計上の留意事項 -(坂本氏担当)	3. 設計上の留意事項
参考-135	5 行目	本文の表 2.2.2, および表 3.3.3 に示す処置を行なう場合は、	本文の表 2.3.2 , および表 3.4.3 に示す処置を行なう場合は、
参考-135	16 行目	半乾燥 乾燥	半乾燥
参考-135	18 行目	表 2.3.3 および表 3.4.3	表 2.7.2